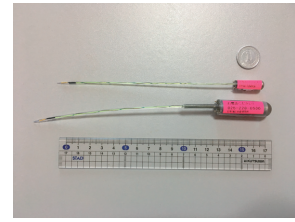


# 記録計（電子標識）によるブリの移動生態調査を行っています

古川誠志郎（資源管理部・資源管理グループ）



2019年5月、147尾のブリに記録計を取り付けて追跡を試みる調査を行っています。その概要と途中経過についてここに紹介します

## 【はじめに】

ブリは、海に面したほとんどの都道府県で漁獲されており全国的に重要な漁業資源です。近年は、海の中にいるブリの量が歴史的にみても高い水準で推移していると考えられていて、漁獲量としても、2010年以降は全国で毎年10万トン以上のブリが水揚げされています。ところが、全国の合計量として多くのブリが漁獲されている一方、その獲られ方に変化が生じ始めているようです。北陸で寒ブリの不漁が大きな話題となった年があった一方で、太平洋側の地域や北海道などで漁獲量の増加が報告されています。このような状況から、ブリの移動する経路が過去と比べて変化しているのではと考えられるようになってきました。そこで、ブリの移動生態を解明すべく、記録計（電子標識）を用いたブリの標識放流調査を石川県定置漁業協会の協力を得て石川県水産総合センター、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、新潟県水産海洋研究所とともに実施しました。

ブリ) 147尾に記録計をつけて放流しました (図1)。記録計の付いたブリが再び漁獲されて、この記録計のデータが回収できれば、その間に、どのような経路で移動していたのか等の重要な情報

**ご協力をお願いします！**  
**記録計や標識のついたブリを見つけたら、ご連絡ください！** 詳細はこちら→

**背中**の標識 (オレンジ) →

石川県で放流  
 尾叉長 32~88 cm  
 記録計 147 尾  
 背中の標識のみ 47 尾

← **注目ポイント**  
 お腹からケーブルが出ています (切らないでください)

※ 非常に小さな記録計です

**記録計** ブリの回遊経路、泳ぐ深さ、経験水温を記録します

Tシャツ  
 タオル **お礼に記念品を進呈致します**

- ・ 記録計や標識のついた魚は **魚体ごと買い取らせてください**
- ・ 記録計と魚体は **冷凍しないでください** (冷凍してしまってもご連絡ください)
- ・ 魚体がない場合は、**記録計** や **標識** を **着払いでお送りください**
- ・ 獲れた日、獲れた場所、尾叉長 (上の図)、体重を教えてください

## 【野外調査とデータの回収状況】

本調査では、2019年5月27~31日に石川県輪島市曾々木沖の定置網にて漁獲された様々なサイズ (銘柄) のブリ (石川県での呼称：フクラギ、ガンド、

**連絡先** 日本海区水産研究所  
 電話：025-228-0536 担当：古川・久保田

ふるかわ くぼた  
 大変お手数ですが、お電話は月~金 (平日) のみとなります。週末を挟んで魚体を保存することが難しい場合は、記録計だけでも保存して頂き、平日にご連絡ください。

図1. 標識ブリの放流と再捕に関わる報告依頼のポスター

を得ることができます。現在（2020年1月17日）までに、30個体の記録計の付いたブリが再捕獲されています（図2）。回収されたこれらの記録計データから、夏季に北海道沖などへ移動する個体の移動経路や、北陸周辺に滞在する若齢魚の位置などの情報が得られています。中には、津軽海峡を通過して北海道の太平洋側へ移動した個体もありました。今後も、多くの記録計を回収することで、ブリの移動経路の解明が進むものと考えられま

す。お腹に記録計の入ったブリや、背中にオレンジ色の標識が付いたブリを見つけたら、魚体ごと買い取りますので、下記までご連絡下さいますようお願い申し上げます（図1）。

**【連絡先】**

日本海区水産研究所 担当 古川・久保田  
電話：025-228-0536

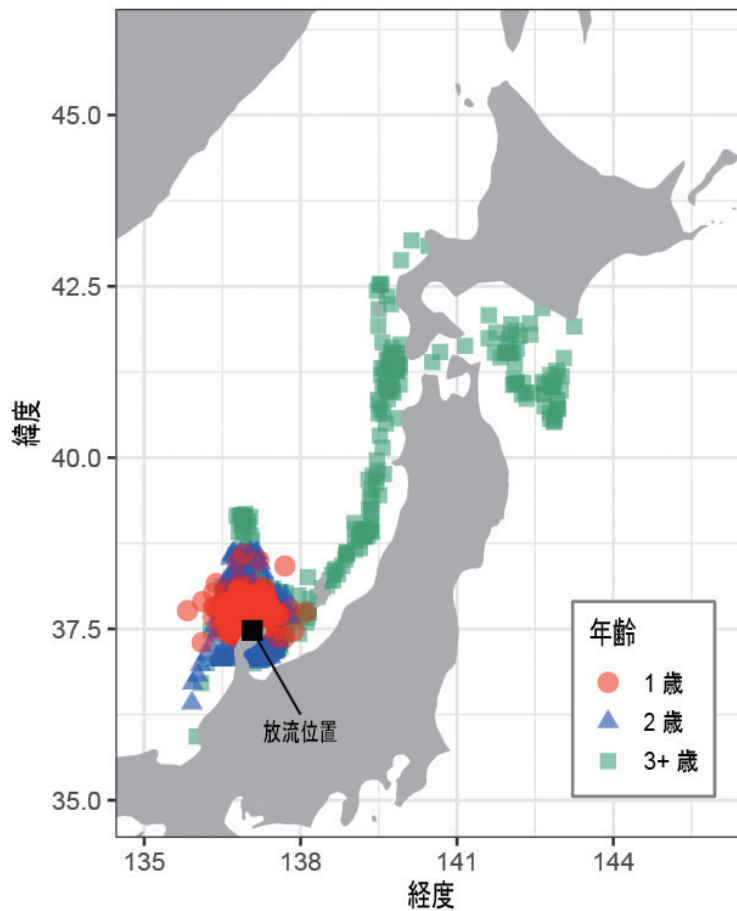


図2. 回収された記録計のデータから推定された年齢別のブリの位置情報